

# 時事新報

第千三百九十號  
 明治十九年九月廿五日 土曜日  
 西曆八月廿五日 (戊子)  
 創刊於西曆一千八百八十六年  
 出刊於西曆一千八百八十六年  
 創刊於西曆一千八百八十六年  
 出刊於西曆一千八百八十六年

### 地方看客へ社告

時事新報御購讀被成下候に付ては日々御郵送申上候新報封御名前の貼に兼て御携入の前金相切候期日記入仕置き右日限に至り更に引續前金御携入無之時は其日限り新報郵送相見合せ候旨の處從來久しく御購讀被下居り御名前も熟知の御方に限りて數日前金延着の爲め一時新報は郵送を停止して御不自由相掛候候も不本慮れ至と存ス斯様の看客に對しては既前金相切候に拘りらず特に郵送停止の日限を猶俟仕候事切に是迄往々有之候處斯くて二三例外のもの有之爲め至休の計算上も非常の混雜を生宏六に社務の整否に關係を及ぼし候以以來は誰れ彼れの區別なく萬事規則の通り取扱ひ時事新報の郵送御封の日限まで必ず停止仕候等々御座候間左様御承知被成下度此段爲念申上置候

## 時事新報

### 外國の商賈は不景氣と知らず

日本の商況の不景氣は既に其極度達したるもの歟或は尙ほ一段甚しきに進む可きもの歟、何れにしてても回復の期は容易と見る可らざるもの、如し扱その不景氣の有様は如何と尋るに生産者が物を作り出して之を買ふ者なく商人が商賈品を仕入れくも賣捌の道なきが爲めに職工も手を空うし商賈人も閑居して生活に苦むのさからず資本家も共に其禍に罹りて次第に衰弱の色と現はすと申せば本来日本は東洋の國にして他の例に比し人口多し資本少くして金の利子甚だ低からず非常の高利の格外の事とするも尋常の場合に於て一年一割以下に下るよといふかかりしものが近年の工業起らず商賈振はず資本不用かたがた先づ一割と扱置き七八分にも六箇數く本年に入りては先づ五分内外を以て目安にするもの、如し實に古來例もなき低利にして資本家収入より見れば恰も其身代を半減したるに異ならず前年あれば五萬圓の元金を運轉して五千圓の利子を得たるものが今日は五朱利付の爲償證書と百餘圓の割合にて買入き一年の所得二千五百圓も足らず誠氣の毒なる次第よこそあれ依て我輩の痛は案定るよ今不景氣達ふて商賈品に賣捌の道なきとは唯日本國內に其道なきのみにて外國に向ては都ての取引ひかしと變りある可らず我開港場の貿易の盛の如くして近年は其輸出の法も次第に手慣れたることありば日本は資本家も俗に所謂馬鹿直と出して公債證書を買ひ空しく其身代の力と半減して自ら苦しむよりも眼を轉て外國の商賈に手を出すこと得策ある可しと信ず事細目は他日の説明に譲り今こゝに大體の利害を述べん

第一近年日本の職工役夫は仕事なくして賃錢非常な下落したるが故に外國へ輸出す可き品物は製作品も天産物にても其の賃錢の下落したる割合に低價から可し而して外國の市場に於ては日本國の賃錢が下落したるとして之が爲めに日本品の價を落し非ず其間の利益は自から我輸出商人の手に歸するものと勘定に於て明白なる數なり

第二日本の商況活潑にして金利一割以上の時節も輸出商賈には至當の利益を見ざるものと云ふ然るに今日

我資本家の五分の利子に甘んじて他念なき有様なれば受も着する輸出商賈に付き資本金に對する利子一年百分の五なりと覺悟を定るときは賣買以上の利益は必ず大なる可し如何と云ふれば前年は金利を一割以上に計算しても尙ほ利益を見しものなれば今日の商賈に前年と同き首尾と得ば五分の利益は利子の差より去て恰も別途に入るの姿ある可ければなり

第三近年は外國にて金貨頻りに騰貴し同名の金銀貨も其差凡三割以上に達したり故日本にて輸出品の仕入は都て銀貨(紙幣も銀と同じ)を以てして彼の國の市場に賣上り代價は金貨を受取るとなれば日本にて百圓と唱ふる品を原價の唱に從て其まゝ百圓に賣るも既に三割の差を見る可し固より商賈の事活動にして日本にて百あるが故に必ず外國でも百なる可きにあらず臨機應變時に隨て大利もあらん小利もあらん又時として失敗もあらんといふも兎に角に今の金銀貨相違の時節に當りて銀貨國品物を金貨國に賣るの利益は決て少くならず假令正ま三割の利と見る可し取引の事都て苦情少くして容易なる可き便利は疑もなき事なり

右は専ら輸出の利益を記して我輩の斷じて疑はざる所なるとも輸入の方にも亦見込なきに似ず常に時勢の變遷に注意して内外の需要供給を視察したれば外國の意外の物を生じて内國の意外の需要もある可し北亞米利加の麥、熱帶諸國の米、輸入す可らざる非ず日耳曼に山鹽あり或は以て日本の鹽田を壓倒す可し、濠斯太利に羊毛あり日本の地を擇るる大に織物の製造所を起す可し又或は日本人が近來頻りに西洋の衣食を悦び上流部分にては漸く西洋奢侈の風を學ぶんとする者あり一國經濟の利害はイザ知らず商人の身と爲りては自から利するの外に論説ある可らず世人が奢侈に赴かんとする可き幸か不幸か西洋諸國に流行の珍品を輸入して紳士貴女の嗜好心に投ずるか又は其眼前に珍奇と輝かして資澤の情を誘導し以てます、之を賣るの工風こそ専ら輸入の商賈社會尙餘地あるものと云ふ可し

右は今日の商賈上誠と時勢の事情にして内資資本の所用されれば外資の用と云ふに過ぎず苟も自家の資産に指得の考ある者は人の言を依たすし自から種殖す可し等あるに世間其沙汰を聞くも種殖するは何や畢竟我日本人は數百年來封鎖諸國の空氣の中に養はれて政治の開放開國に決まれば國民の願望は心に燃して動かす可らず不景氣の影響利は間接に其の力が半減せらるるに至りても尙ほ之を免かるゝの道は求め有る才力有る資本を所持ししがが坐して四却て更に一説なるとは我輩の解法能はざる所に於て失敗ながら日本の資本家と對建の道長に於て利を知らざる者と云ふざるを得ざるなり

### 官報

軍艦發着 筑波艦と去る七日ハ、に着勢城艦は同日長浦と回艦海門艦は同日午前四時横須賀出發同日七時房州館山港に着せり

大學學生貸費 今般官廳其他より帝國大學分科大學學生へ貸費金を出さんと帝國大學へ依託せらるれば左の如し

文部省ヨリ分科大學卒業ノ後師範學校若クハ中學校ノ教員トナスヘキタメ三十人以内ノ貸費學生ヲ養成スルコトヲ達ス○司法省ヨリ卒業ノ後該省職務ニ從事セシムルタメ本年ヨリ分科大學學生二十八人宛貸費シ且此ノ他時宜ニ依リ大學院學生若干人ニ貸費スヘキ旨依託セリ○鐵道局ヨリ卒業ノ後該局事業ニ從事セシムルタメ本年土木工學科學生七人器械工學科學生三人宛貸費セリ○三葉社長若崎彌之助ヨリ理科ノ何タルヲ問ハス獎學ノタメ十八分ノ貸費金ヲ出シ卒業ノ後別ニ從事ノ職業等ヲ制限セシメ貸費セシ學費ハ直ニ帝國大學ヘ返納セシメ更ニ他學生ニ貸費セシコト開陳セリ○東京府平民古河市兵衛ヨリ採鑛冶金學科學生六人ニ貸費シ卒業ノ後同人ノ事業ニ從事セシムルコト開陳セリ○藤田組頭取藤田傳三郎ヨリ採鑛冶金學科學生二人、土木工學科學生一人、造船學科學生一人、應川化學科學生一人、合セテ五人ニ貸費シ卒業ノ後該組ノ事業ニ從事セシムルコト開陳セリ (以上本年九月廿四日官報)

### 天津の貿易

日本郵船會社が天津の航路を開きたるより東京、大坂、長崎等の商人が進々商品を送り貿易を試みる者多ある趣あるが就中形模附の陶器は支那人の嗜好に適しる小や需要頗る盛んにして一時は彼地にて陶器の名所ある九江幾をも壓倒する程の勢ありしが近頃は該品の賣買も餘程薄らぎ少く往前の好況を失ひたる景氣ありと云ふ右は如何なる原因あるか未詳ならざれども是迄日本商人が雜貨其他の輸出にて毎々失敗を取りたるは主として競賣の一事に因るも此れを今度幸に北支那地方に於て我陶器の新市場を見出したるに付て、又も同様の失敗を取りて折角開きたる利源を再び閉鎖する様の不幸ならんと望むありと或人は語れり

### 朝鮮元山通信

(九月十三日發) 八月上旬以降虎列刺病流行次第蔓延し頗る猖獗を極め去々内地方商人共避病の爲めに移轉するあり或は郷里に歸るありて夫が爲め砂金を齎する者甚少く永興金山迄も惡疫侵入したるは鑛夫等は大小恐れ四方に散去る者過半なり此等も砂金の輸出を妨げたる原因ならん幸にして元山永興邊に惡病も近來消滅の模と成りたるとは前記に病を避けたる華主商人も往來を始め過日以來砂金等と携帶するものも抄からず左れども其價の高貴にして格別引合はざる趣なり○米は去る三日入洋の高千穂丸便には輸入の米は僅々八百石位しかれ共前便輸入せし分今又一萬石餘も殘餘ありて非常の荷當ある判方は尤不印にて商人一同開却の由に聞くと云ふ市中の輸入に五千六百反餘に達するも多き趣も如何にせん砂金高價あるが爲め是れ引合はざるといふ○今便輸出の砂金は八貫目位あり○温度は大抵七十二度と上下す○元山里の虎列刺も稍や消滅したる○以て元山通商の消息も本月七日限廢るたり○當港領事館詰めの書記生鈴木章氏は客冬以來二三有恙者の請に應答公務の餘暇英語を教授し來りしが次第に學生増進去近來は本願寺も出張して毎夜七時頃には教授し居れり同氏は二三年前英國にて實地修業せし人なれば學生も大に仕合せの事ならん

### 大坂通信

(九月十八日發) 本年當府下懸流行にて各商業中損害を蒙りたるものは數多死中には襤褸古若商紙屑商等は輸出入を禁止せらるるが爲め損害尤も多く今日まで此三業の損失高は凡十三萬圓餘の由にて何れも困却れ有様あるが府廳も何と云ふ方法を設け此弊を解かんと過日赤天保山砲臺の傍へ右物品の消滅室を建築し來る廿七日落成の筈なれば十月一日頃より同所にて右等共解禁するよし○遊藝中軍談話志願居は未だ解等の沙べけれども目下當れば不意に解禁の其筋の見込を開き總編輯三河彦次が何出たるに各芝居法と設くる時は出部にて詮議の上諸芝居小屋の主人芝居内開場するになき故今度川口目下大坂俱樂部を日下討論中あるがとも設くる積あり開會する由も水常務委員會を開き事は來る廿四日官衙の長次官と中を催す由にて既疑事件の豫審調べる有様なきは本を可と云ふ

○熊本通信 (九月) 昨日來着し河知事は去る十一日費中傳染病預防五回餘を臨時支出あり○コレ病は秋長洲間に毎日一郡長洲間に毎日一本區内は今日何れも例年に勝る十日も當府のミヒり西北の風少し強きなり○客月廿五日に船金等寄贈あり有る者の義理の多く總金額は萬餘に達し居りたるが故に地へ運届けたるが故に取戻し人本、如江村に氏東京に寓す、言人中公議入を沈黙して不景氣の對策の推察は、は英國海軍の分際なる解、に於けるの目、ヤレース、ハ、爲め、年々、打毀、Before you mind to mind. A child of a